

コスモス通信

発行所▶大阪府グラフィックサービス協同組合
コスモス会
編集責任▶コスモス会事務局

報告 第53回ジャグラー文化展京都大会 近畿地協がホスト役——コスモス会は受付

6月10日京都全日空ホテルにおいて「近畿は一つ、全国も一つ」を合い言葉に、「京都でほっこりしとくればやす」のコピィ、3月11日の東日本大震災で被災された方々への「仲間の支援」を盛り込んだ有意義な大会となりました。

自粛を検討したこともありましたが、被災を免れた全国の仲間が頑張つてこそ、被災された方々への力にもなることができるとの判断で開催されたこの大会。被災地東北からの

参加者も含め、370余名の会員が参加。当日行われた大会義援金として当初の目標額を大きく上回る150万円も集まりました。

例年ならジャグラー通常総会から記念式典、懇親会と二連の流れが進められるのですが、今年近畿地協がホスト役で京都での開催ということもあり、OGS総会も併催されました。コスモス会の役割は受付で



大の鉄道ジオラマが展示されています。小さくて精巧な新幹線や特急が走るのを眺めていると、思わず時間を忘れそうになってしまいました。

このとき空はかなり明るくなっていたのですが、次の目的地、天龍寺ではすっかり快晴になっていました。

あいにくの雨が降りしきる6月11日の朝、前日の懇親会の興奮冷めやらぬままバスに乗った私たちはお世話役の皆さんに見送られる中、最初の目的地トロッコ亀岡駅に向かいました。

天龍寺では精進料理をいただいた後、八方睨みの雲龍図やお庭を楽しむ、そのまま歩いて大河内山荘へ。竹林の風情がありながら結構傾斜のある坂道を上つたどり着いたら、中はさらに山道で「汗かかせてもらいました。これを「庭」として楽しめるなんて、昔の人は健康だったんですね。もちろん景色は絶景でした。

大河内山荘からは道沿いの土産物屋をひやかしながらバスに戻り、最後のお楽しみ「幾松の間」。

まずは食事の前に有名な「幾松の間」へ。時代を感じさせる低い天井、畳や床の間。長州藩の攘夷志士たちの息づかいがまだ聞こえてきそうです。

次回は柴 美花子さんです。 佐々木富江



自宅から駅まで片道約2kmの通勤路。季節の草木を楽しみながら歩いていきます。春の桜が終わると、駅近くのお店の花壇には一面のつつじ、横の道路にはハナミズキが咲きます。今は通りのお宅に咲く色んな色の紫陽花がともきれいです。



鴨川納涼床「幾松」で歓談中のことです。突然、左頭部に衝撃が... 後ろを見るとやや太めの鴨が(失神中?)いました。川にかえしてやれば?の誰かの声で、抱き上げて川辺まで運びましたが、途中でお目ざめか、バタバタと元気よく飛んで行きました。

森沢美和子



幾松の間

田中幸恵

一筆箋



森沢美和子